

「地域の力を学校へ」推進事業の実践例（平成24年度実施分）



テーマ

Theme

「福祉学習『インスタントシニア体験』」

講師等

Lecturer etc.

社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会
福祉用具センター

学校・園名

School name

彦根市立南中学校(2年生)

実施日

Date

平成24年10月26日/11月8日

教科等

Subject etc.

総合的な学習の時間

授業 Class

人は誰でも高齢になると、手や足(筋力)、目や耳など、あらゆる機能が衰えてきます。今回、生徒たちは体に器具(関節サポーターやおもり…体の自由がきかない体験、耳栓・ゴーグル…聴覚や視覚の変化・白内障の体験、ゴム手袋…触覚の低下や指先が不器用になった状態の体験、その他つえ等)をつけて、インスタントシニア体験(高齢者疑似体験)を行いました。器具を着けたままの生徒たちは、学校内のコースを課題(紙に字を書いたり、靴を履き替えて外に出たり、階段を上り下りしたり…等)に挑戦し、実際に高齢者の方の普段の生活の大変さを実感しました。

この体験は、高齢者の視点に立って気持ちを知ること、また、社会環境の対策や改善の一助にしようという目的があります。今日の体験は、高齢者の方がいろいろな場面でゆっくりしていると感じて、その体の不自由さを理解したり、心理的な影響やどんな手助けが必要かについて考える授業になりました。



感想 Impression

生徒より Impression from Students

- お年寄り是不自由なんだなあと感じました。この状態がずっと続くと、腰とか肩とか痛いし、暗い気持ちになると思いました。気持ちが理解できました。
- 周りに迷惑をかけるのが精神的につらく、公共の場に出て行きづらくなるだろうと思います。そうすると、人とのコミュニケーションがとりづらく、人間関係が悪くなっていくなと思いました。
- 思うように身体が動かず、とても生活しにくいということが分かりました。当たり前のことが出来なくなるのはいらいらしたり、つらいと思いました。

学校より Impression from school

4つのコースやレジュメを丁寧に準備していただいてありがたかったです。事前に心配されていたように、確かに装具の着脱に時間がかかりますが、着脱の経過そのもの(だんだん不自由になっていく身体)が、良い教材であるように思いましたし、介助の生徒が自然に手を出す雰囲気になったのが、良かったと思います。

子どもたちは、高齢社会に向けて生活に密接に関係した学習内容で、ねらい通りでした。おもりの予想以上の重さや白内障体験用ゴーグルのあまりの不自由さに驚いていた様子でした。身近なお年寄りに対しても、やさしくいたわる気持ちをもってくれたと思います。

講師より Impression from lecturer

今回は、体育館で2クラス同時に実施しました。体験で使用する範囲が狭く、高齢者の方の大変さやそれに伴う心理的な影響について感じてもらうことが難しかったかもしれませんが、聞いた感想に「お年寄りはいつも大変なんだとわかった」などありました。また、事前学習も実施されており、体験することにより、高齢者への理解が深まったのではないかと思います。体験後に、生徒同志で意見交換の時間を取るようにしたいです。